

中国新聞 平成 27 年2月 28 日

ジュニア検定で防災学習

戸山中「学校挙げ受検」中国地方初

広島土砂災害を教訓に、広島市安佐南区の戸山中の1、2年生 40 人が、災害から身を守るための知識を試す「ジュニア防災検定」に挑戦する。学校を挙げて受検するケースは中国地方では初めて。

3月3日の本番を前に、地域ぐるみで防災の機運が高まっている。

同検定は、防災検定協会(東京)が小中学生を対象に開発した。地震に強い収納術や望ましい避難行動に関する知識が問われるほか、「避難所でどんな手伝いができるか」を考えさせる設問などがある。今回は1年 23 人が中級を、2年 17 人が上級をそれぞれ受ける。

土砂災害の被災地の住民や専門家でつくる「防災を考える会ひろしま」に勧められたのがきっかけ。生徒は今月中旬、採点の対象となる事前課題のレポートを仕上げ、校内に掲示した。家族と確認し合って決めた避難場所や連絡手段のほか、「1人暮らしのお年寄りも連れて逃げる」と書いた生徒もいた。

2年鳥本萌々香さん(14)は「避難先について、家族の意思統一ができていなかった」。1年山本聖来さん(12)は「受検で得た知識を母にも教えたい」と話す。

戸山地区では今月上旬、戸山小の5年 16 人が初級に挑んでいる。同会の原田照美会長(81)は「子どもへの教育を充実させれば、親世代にも広まる」と期待している。

(奥田 美奈子)